

9 相談や情報入手について

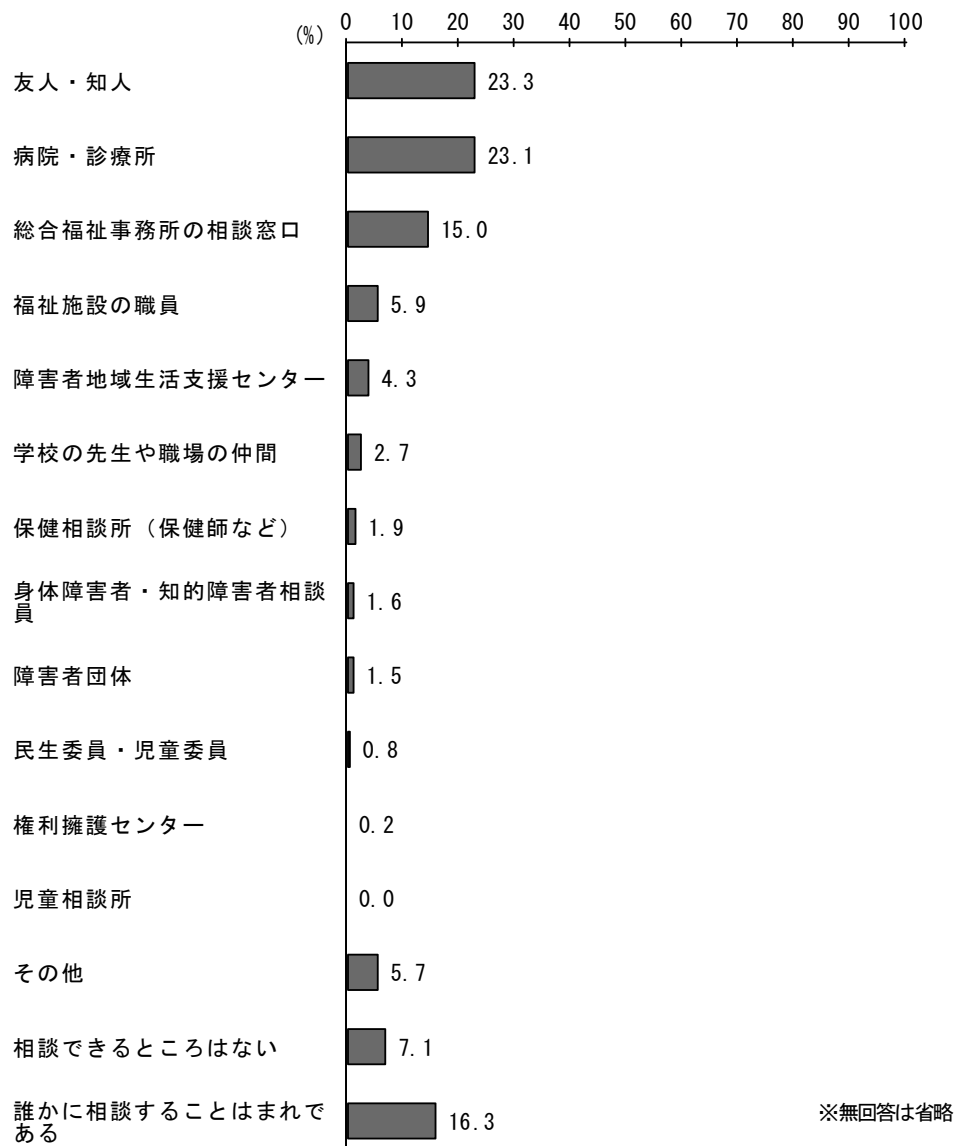
(1) 悩みごとや心配ごとの相談先（家族・親せき以外）（複数回答）

身体障害者では、「友人・知人」に相談することが最も多い。また知的障害者では、「福祉施設の職員」に相談することが多く、精神障害者では、「病院・診療所」が最も多い。一方、身体障害者の7.1%、知的障害者の6.3%、精神障害者の6.8%が、「相談できるところはない」と回答している。

身体障害者では、悩みごとや心配ごとの相談先(家族・親せき以外)として、「友人・知人」をあげる人が23.3%と最も多く、次いで「病院・診療所」(23.1%)、「総合福祉事務所の相談窓口」(15.0%)と続いている。なお、7.1%が「相談できるところはない」と回答している。

悩みごとや心配ごとの相談先（家族・親せき以外）（複数回答）

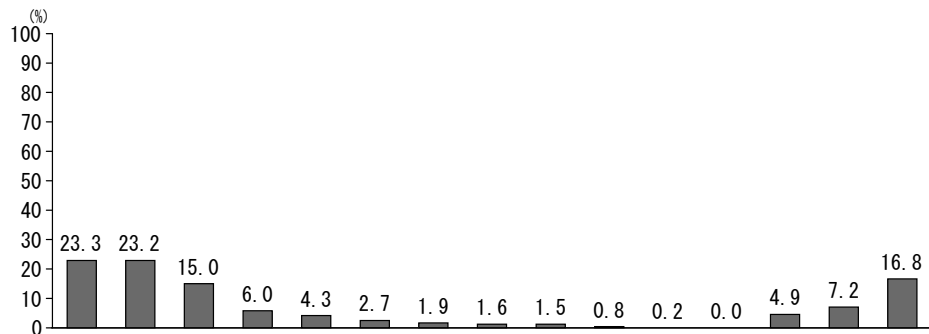
【身体障害者】 全体 n=2,064



障害の程度別にみると、重度(1・2級)では、「病院・診療所」が最も多い。
 障害の種類別にみると、肢体不自由(体幹)、内部障害では「病院・診療所」(24.7%、30.6%)が最も多い。

悩みごとや心配ごとの相談先(家族・親せき以外)(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064



* 問6 障害の程度	n	相談先														
		12	9	1	8	3	10	2	6	11	5	4	7	13	14	15
0 全体	2,064	23.3	23.2	15.0	6.0	4.3	2.7	1.9	1.6	1.5	0.8	0.2	0.0	4.9	7.2	16.8
1 重度(1・2級)	1,074	19.6	26.1	17.3	7.9	4.7	3.1	2.1	2.1	1.8	0.5	0.1	0.1	5.0	7.4	16.9
2 中度(3・4級)	739	28.4	20.3	13.1	3.5	4.1	1.8	2.2	0.7	1.5	0.8	0.5	0.0	4.5	6.5	17.6
3 軽度(5・6級)	189	27.5	19.0	11.6	2.6	3.2	4.2	0.5	1.1	0.0	2.6	0.0	0.0	5.8	9.0	14.8

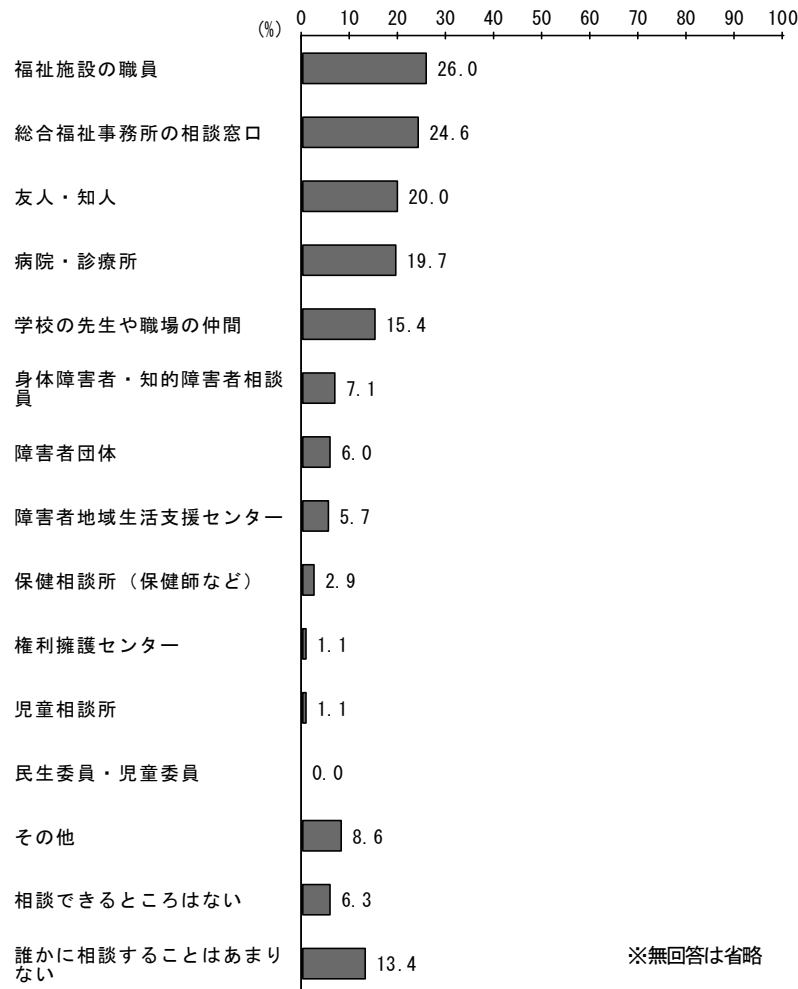
【身体障害の種類別】

障害の種類	n	12	9	1	8	3	10	2	6	11	5	4	7	13	14	15
1 視覚障害	133	26.3	14.3	14.3	5.3	3.0	3.8	2.3	0.8	1.5	1.5	0.8	0.0	5.3	10.5	12.0
2 聴覚障害	158	34.8	12.7	19.6	3.2	5.1	5.7	1.3	3.8	4.4	3.8	0.0	0.0	4.4	7.6	10.8
3 平衡機能障害	26	11.5	23.1	3.8	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	26.9
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	41	22.0	26.8	12.2	12.2	0.0	2.4	2.4	0.0	4.9	0.0	0.0	0.0	12.2	7.3	2.4
5 肢体不自由(上肢・下肢)	723	26.3	20.5	16.7	6.9	5.3	2.6	2.1	2.2	1.4	0.3	0.4	0.0	4.8	6.6	17.6
6 肢体不自由(体幹)	215	20.5	24.7	19.5	10.2	4.7	2.3	3.3	2.3	2.3	0.9	0.0	0.5	2.8	5.6	15.8
7 内部障害	601	19.1	30.6	11.5	3.8	2.7	2.2	1.7	0.2	0.5	0.5	0.2	0.0	4.2	7.5	20.6
8 その他	59	18.6	27.1	15.3	1.7	5.1	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.3	5.1	16.9

知的障害者では、「福祉施設の職員」が 26.0%と最も多く、次いで「総合福祉事務所の相談窓口」(24.6%)、「友人・知人」(20.0%)と続いている。なお、6.3%が「相談できるところはない」と回答している。障害の程度別にみると、程度が重くなるほど、「総合福祉事務所の相談窓口」が多い。

悩みごとや心配ごとの相談先(家族・親せき以外)(複数回答)

【知的障害者】全体 n=350

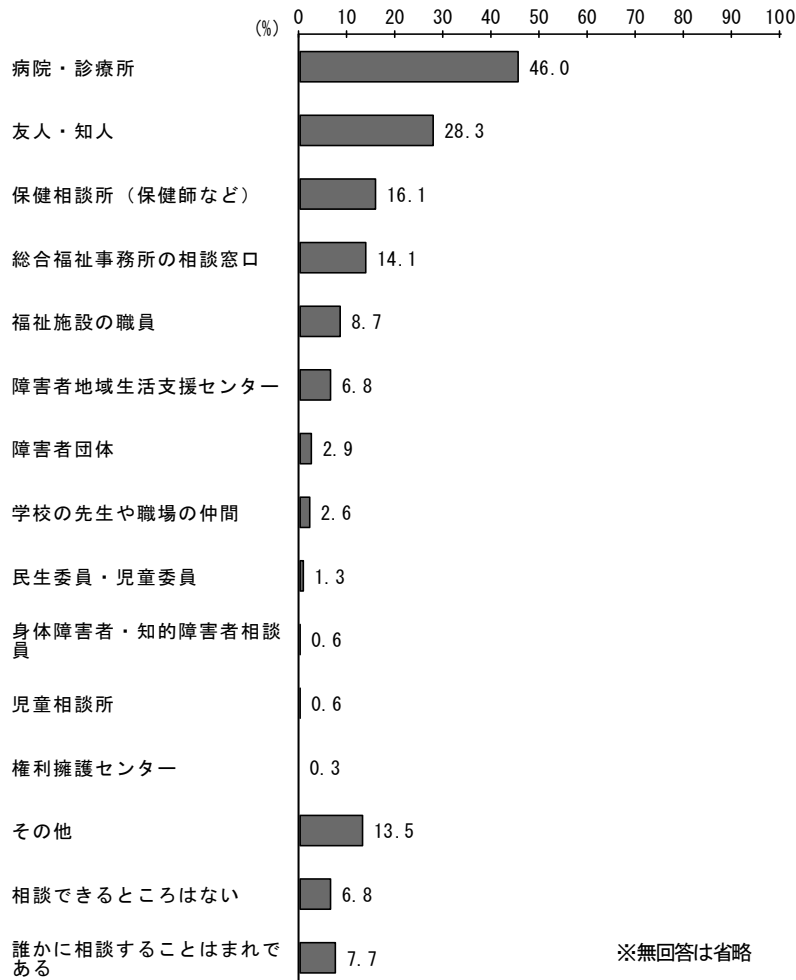


* 問6 障害の程度	n	8	1	12	9	10	6	11	3	2	4	7	5	13	14	15
		福祉施設の職員	総合福祉事務所の相談窓口	友人・知人	病院・診療所	学校の先生や職場の仲間	身体障害者・知的障害者相談員	障害者団体	障害者地域生活支援センター	保健相談所(保健師など)	権利擁護センター	児童相談所	民生委員・児童委員	その他	相談できるところはない	誰かに相談することはあまりない
0 全体	350	26.0	24.6	20.0	19.7	15.4	7.1	6.0	5.7	2.9	1.1	1.1	0.0	8.6	6.3	13.4
1 最重度・重度(1・2度)	129	32.6	36.4	19.4	26.4	17.1	7.0	6.2	6.2	3.1	1.6	0.8	0.0	6.2	7.0	7.8
2 中度(3度)	77	32.5	27.3	5.2	11.7	10.4	6.5	10.4	3.9	1.3	0.0	0.0	0.0	6.5	6.5	18.2
3 軽度(4度)	136	16.2	11.8	29.4	18.4	16.9	8.1	3.7	5.9	3.7	0.7	2.2	0.0	12.5	5.9	15.4

精神障害者では、「病院・診療所」が 46.0%と最も多く、次いで「友人・知人」(28.3%)、「保健相談所(保健師など)」(16.1%)と続いている。なお、6.8%が「相談できるところはない」と回答している。障害の程度別にみると、程度が軽くなるほど、「友人・知人」が多い。

悩みごとや心配ごとの相談先(家族・親せき以外)(複数回答)

【精神障害者】全体 n=311

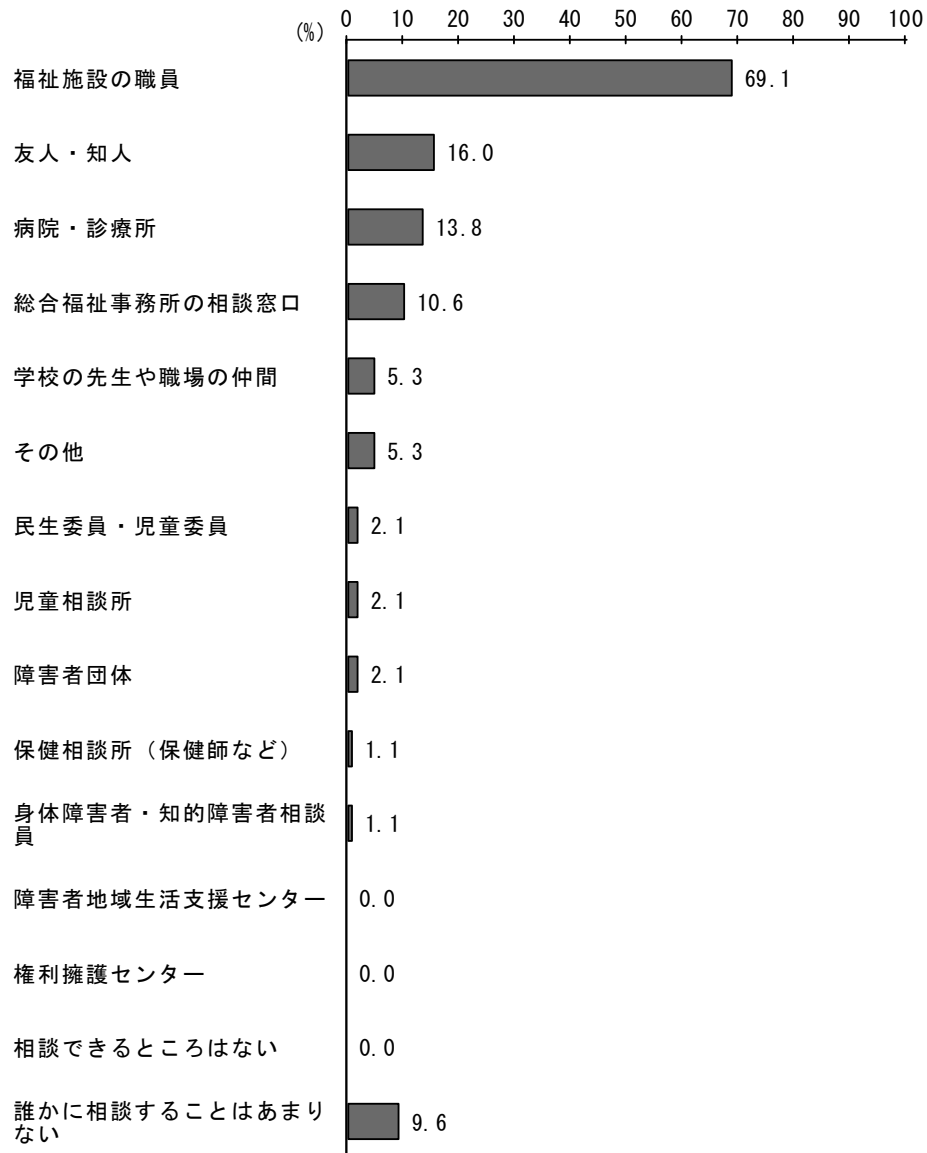


* 問6 障害の程度	n	9	12	2	1	8	3	11	10	5	6	7	4	13	14	15
		病院・診療所	友人・知人	保健相談所(保健師など)	総合福祉事務所の相談窓口	福祉施設の職員	障害者地域生活支援センター	障害者団体	学校の先生や職場の仲間	民生委員・児童委員	談員	身体障害者・知的障害者相談員	児童相談所	権利擁護センター	その他	相談できるところはない
0 全体	311	46.0	28.3	16.1	14.1	8.7	6.8	2.9	2.6	1.3	0.6	0.6	0.3	13.5	6.8	7.7
1 1級	38	52.6	21.1	15.8	7.9	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	15.8	7.9	7.9
2 2級	162	48.8	27.2	19.8	17.3	13.0	8.0	3.7	2.5	1.9	1.2	1.2	0.0	10.5	6.2	6.8
3 3級	101	41.6	33.7	11.9	10.9	4.0	6.9	2.0	3.0	1.0	0.0	0.0	0.0	17.8	5.9	7.9

施設入所者では、「福祉施設の職員」が 69.1%と最も多く、次いで「友人・知人」(16.0%)、「病院・診療所」(13.8%)と続いている。なお、「相談できるところはない」人はいなかった。

悩みごとや心配ごとの相談先(家族・親せき以外)(複数回答)

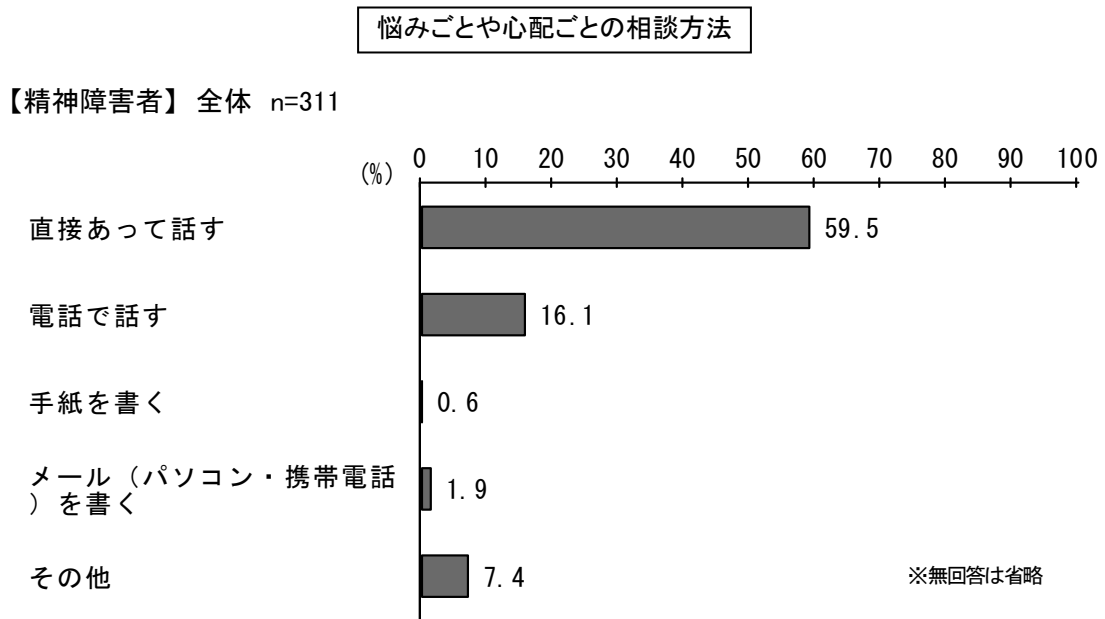
【施設入所者】全体 n=94



※無回答は省略

(2) 悩みごとや心配ごとの相談方法（精神障害者のみ）（複数回答）

精神障害者に対して、悩みごとや心配ごとの相談方法を尋ねたところ、「直接あって話す」が59.5%、「電話で話す」が16.1%である。



(3) 家族・親戚以外に相談するために必要な相談体制（自由回答）

主な意見は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・相談からサービス利用、就労支援までのトータルコーディネーターの存在。
- ・訪問による相談の充実。
- ・電話による相談の充実。
- ・メールによる相談の充実。
- ・近所に相談できる場所があること。
- ・相談員の専門性の向上。
- ・職員の入れ替わりを少なくしてほしい。
- ・ホームページなどに相談窓口一覧の掲載がほしい。
- ・どこに、だれに相談していいかわからない。
- ・土日の相談窓口がほしい。

【知的障害者】

- ・相談からサービス利用、就労支援までのトータルコーディネーターの存在。
- ・近所に相談できる場所があること。
- ・相談員の専門性の向上。
- ・身近な施設(学校等)で相談できること。
- ・相談ボランティアがほしい。
- ・ピアカウンセリングの充実。
- ・本人理解のため、継続的・定期的な相談が受けられること。
- ・信頼できる固定の相談員がほしい。

【精神障害者】

- ・24時間の相談体制。
- ・専門性のある相談窓口がほしい。
- ・総合的な相談窓口がほしい。
- ・区に気軽に相談できるシステムがほしい。
- ・施設(学校)に専門相談員を設置してほしい。
- ・訪問による相談の充実。
- ・専門家がいて予約無しで利用できる、相談カフェのような存在がほしい。
- ・プライバシー保護のため、個室で相談できる場がほしい。
- ・年代や性別で相談員を選びたい。
- ・固定の相談員がほしい。

【施設入所者】

- ・専門性の高い相談員がいてほしい。
- ・個室で相談できる場がほしい。
- ・ゆっくり話を聞いてほしい。

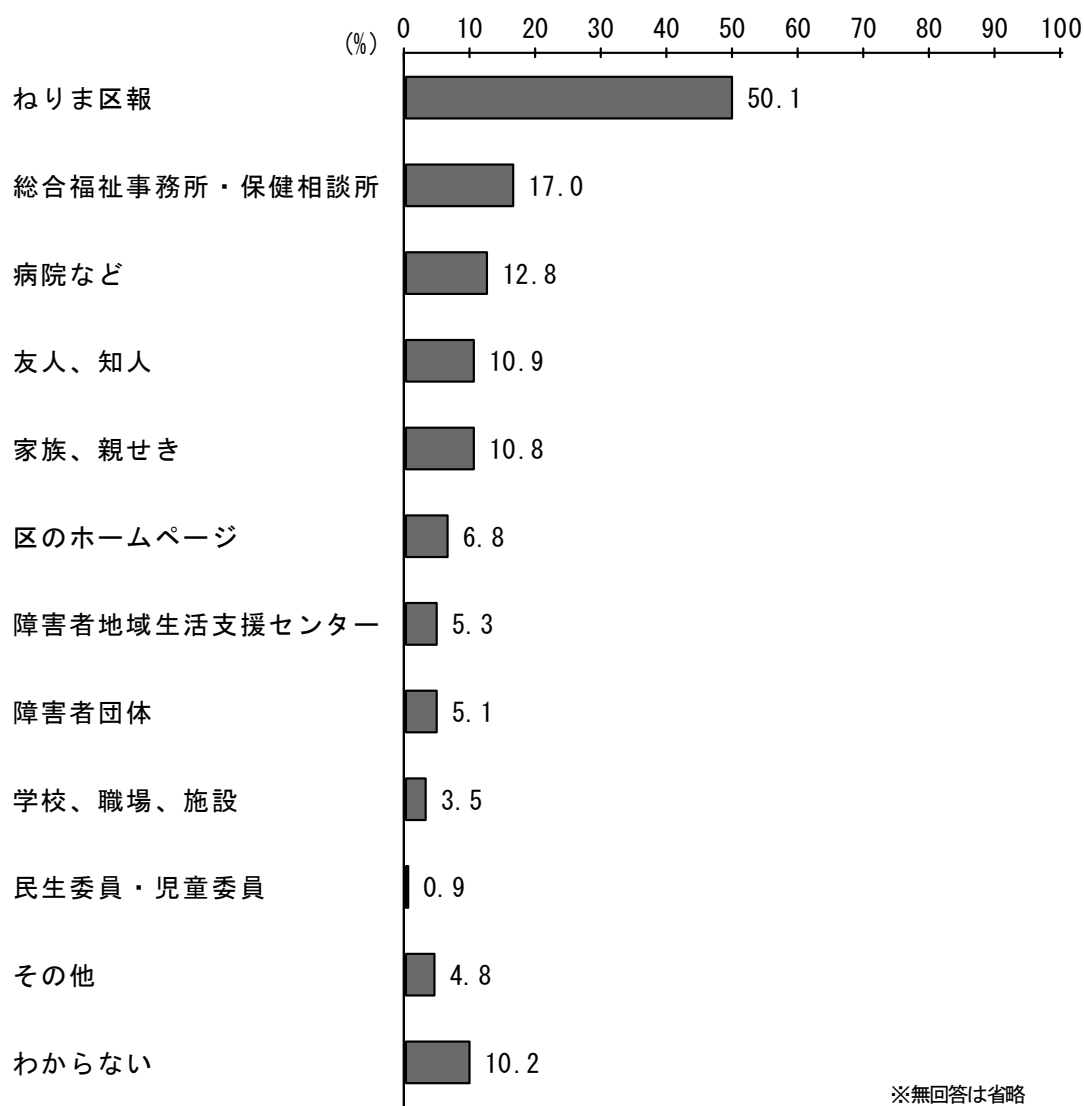
(4) 障害福祉サービスなどの情報の入手先（複数回答）

福祉サービスなどの情報の入手先は、身体障害者と知的障害者では「ねりま区報」をあげる人が最も多く、精神障害者では「病院など」が最も多い。

身体障害者では、「ねりま区報」をあげる人が 50.1%と特に多く、次いで「総合福祉事務所・保健相談所」が 17.0%である。

障害福祉サービスなどの情報の入手先（複数回答）

【身体障害者】全体 n=2,064

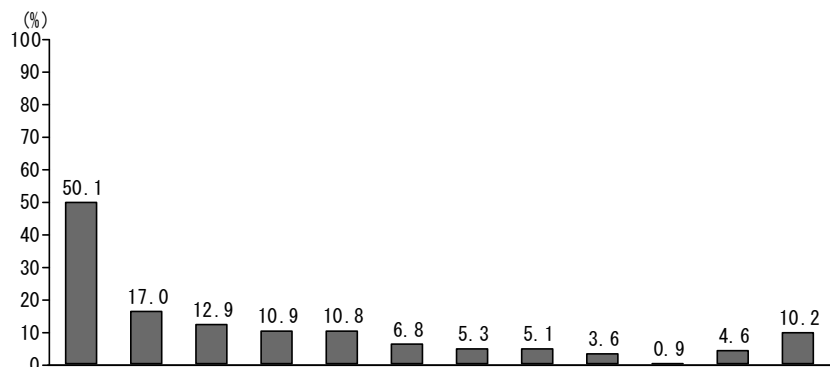


年齢区分別にみると、障害福祉サービスなどの情報の入手先は、0～17 歳では「学校、職場、施設」をあげる人が最も多い。「総合福祉事務所・保健相談所」は、0～17 歳では 39.6%だが、65 歳以上では 14.1%である。

障害の程度別でみると、重度の人ほど、「総合福祉事務所・保健相談所」や「病院など」から情報入手の回答が多い。

障害福祉サービスなどの情報の入手先(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064



* 問 1 年齢	n	1	3	6	10	9	2	4	8	5	7	11	12
		ねりま区報	総合福祉事務所・保健相談所	病院など	友人、知人	家族、親せき	区のホームページ	障害者地域生活支援センター	障害者団体	学校、職場、施設	民生委員・児童委員	その他	わからない
0 全体	2,064	50.1	17.0	12.9	10.9	10.8	6.8	5.3	5.1	3.6	0.9	4.6	10.2
1 0～17 歳	53	41.5	39.6	26.4	24.5	5.7	13.2	5.7	13.2	43.4	0.0	0.0	9.4
2 18～64 歳	614	45.9	21.3	10.9	12.4	8.0	12.4	3.9	8.1	5.2	0.0	5.4	12.2
3 65 歳以上	1,311	52.9	14.1	13.7	9.8	12.3	3.9	6.0	3.4	1.1	1.3	4.7	9.0

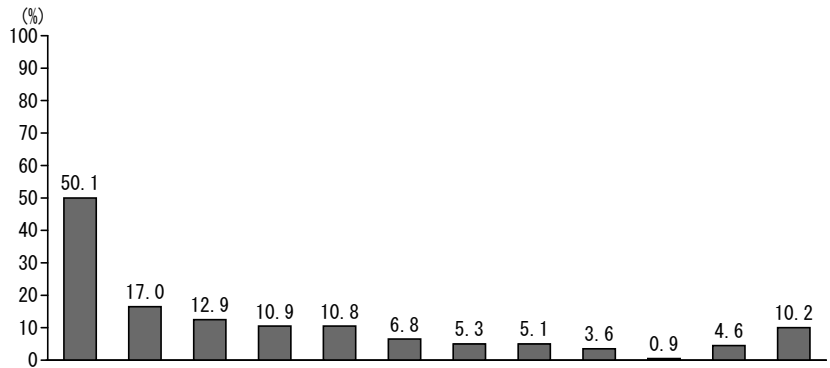
【障害の程度別】

1 重度 (1・2 級)	1,074	47.2	20.6	15.1	10.2	12.0	7.6	5.6	6.0	5.0	0.5	4.7	9.4
2 中度 (3・4 級)	739	55.8	12.9	11.5	12.0	9.5	6.1	5.4	4.6	1.6	1.4	4.5	10.1
3 軽度 (5・6 級)	189	50.3	12.7	6.3	12.7	10.1	4.8	2.6	2.6	2.6	1.6	4.8	14.8

障害の種類別でみると、いずれも「ねりま区報」からの情報入手が最も多いが、そのほかでは、視覚障害、聴覚障害の人では、「障害者団体」から情報入手が他の障害より多い。

障害福祉サービスなどの情報の入手先(複数回答)

【身体障害者】 全体 n=2,064



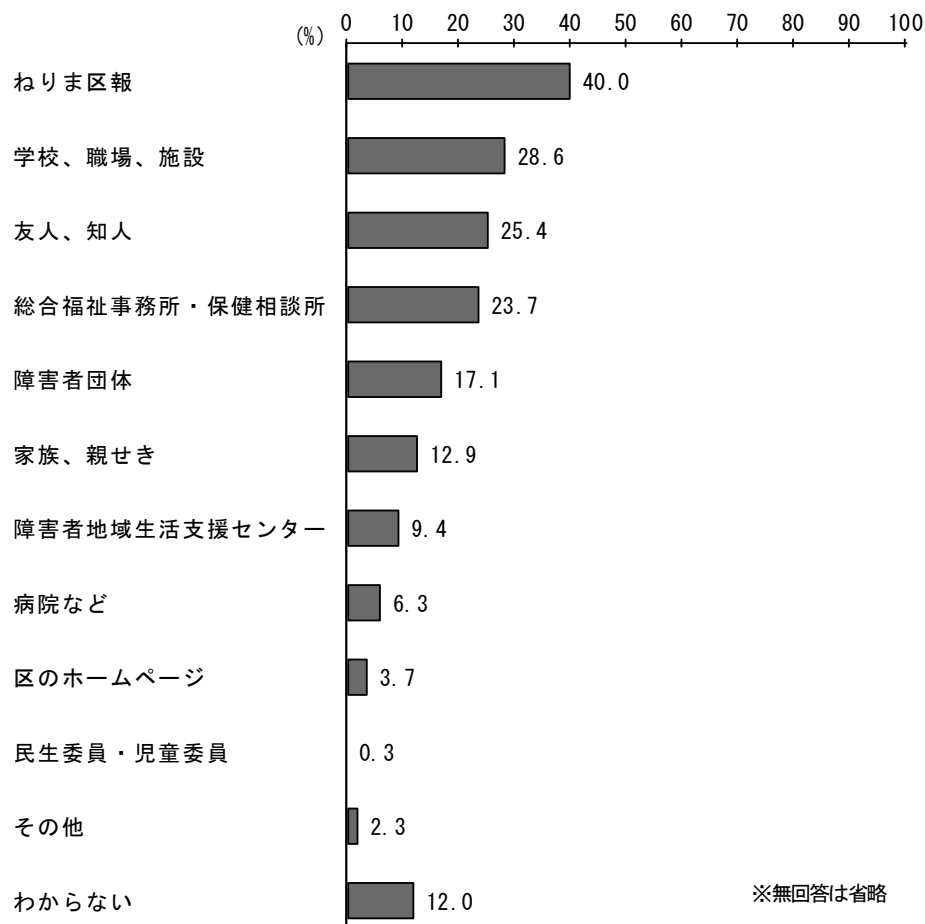
問7 身体障害者手帳に記載された障害の種類 1 番目	n	1	3	6	10	9	2	4	8	5	7	11	12
		ねりま区報	総合福祉事務所・保健相談所	病院など	友人、知人	家族、親せき	区のホームページ	障害者地域生活支援センター	障害者団体	学校、職場、施設	民生委員・児童委員	その他	わからない
0 全体	2,064	50.1	17.0	12.9	10.9	10.8	6.8	5.3	5.1	3.6	0.9	4.6	10.2
1 視覚障害	133	40.6	15.8	4.5	17.3	13.5	7.5	3.0	10.5	2.3	0.8	9.0	13.5
2 聴覚障害	158	57.6	13.9	7.0	13.3	8.9	7.6	5.1	13.9	3.2	1.3	4.4	7.0
3 平衡機能障害	26	57.7	15.4	26.9	7.7	11.5	11.5	11.5	7.7	0.0	3.8	3.8	11.5
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	41	41.5	17.1	12.2	19.5	14.6	0.0	9.8	7.3	4.9	0.0	7.3	4.9
5 肢体不自由(上肢・下肢)	723	52.0	18.5	11.8	10.8	10.9	7.3	5.5	3.9	5.9	0.6	5.0	9.1
6 肢体不自由(体幹)	215	50.7	19.5	12.6	11.6	14.4	6.5	7.4	7.0	5.1	1.4	5.1	11.6
7 内部障害	601	50.6	15.3	17.0	7.8	8.8	7.0	3.8	2.8	1.0	1.0	2.5	11.6
8 その他	59	50.8	15.3	18.6	11.9	6.8	1.7	6.8	5.1	1.7	1.7	13.6	5.1

知的障害者では、「ねりま区報」が 40.0%、「学校、職場、施設」が 28.6%、「友人、知人」が 25.4%である。

障害の程度別にみると、程度が重いほど、「ねりま区報」や「学校、職場、施設」、「友人・知人」、「総合福祉事務所・保健相談所」などからの情報入手が多い。

障害福祉サービスなどの情報の入手先(複数回答)

【知的障害者】全体 n=350



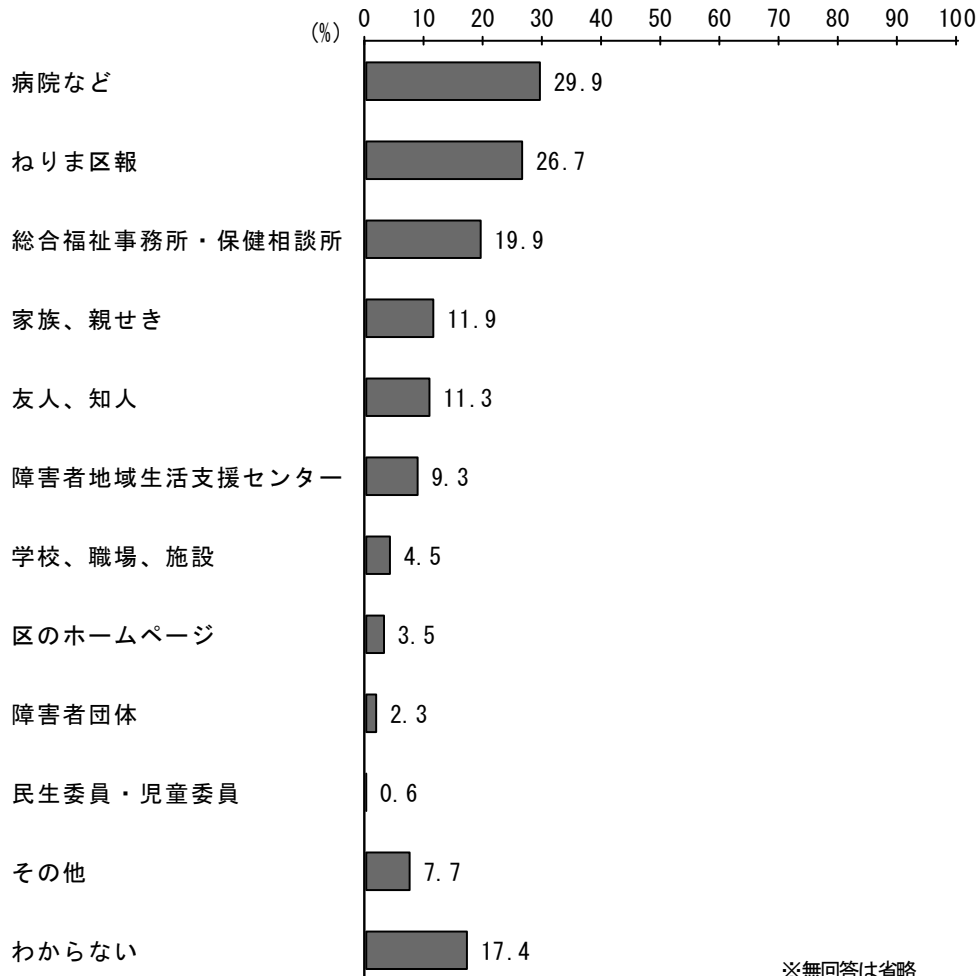
* 問 6 障害の程度	n	1	5	10	3	8	9	4	6	2	7	11	12
		ねりま区報	学校、職場、施設	友人、知人	総合福祉事務所・保健相談所	障害者団体	家族、親せき	障害者地域生活支援センター	病院など	区のホームページ	民生委員・児童委員	その他	わからない
0 全体	350	40.0	28.6	25.4	23.7	17.1	12.9	9.4	6.3	3.7	0.3	2.3	12.0
1 最重度・重度 (1・2度)	129	47.3	35.7	39.5	29.5	25.6	10.9	9.3	7.8	4.7	0.0	2.3	3.9
2 中度 (3度)	77	44.2	27.3	18.2	23.4	20.8	13.0	6.5	5.2	2.6	0.0	1.3	10.4
3 軽度 (4度)	136	32.4	23.5	16.9	19.1	8.1	14.7	10.3	4.4	3.7	0.7	2.9	19.9

精神障害者では、「病院など」をあげる人が 29.9%と最も多く、次いで「ねりま区報」が 26.7%で続いている。

障害の程度別にみると、程度が重いほど、「ねりま区報」や「総合福祉事務所・保健相談所」が多い傾向にあるが、「障害者地域生活支援センター」は軽いほど多い。

障害福祉サービスなどの情報の入手先(複数回答)

【精神障害者】全体 n=311



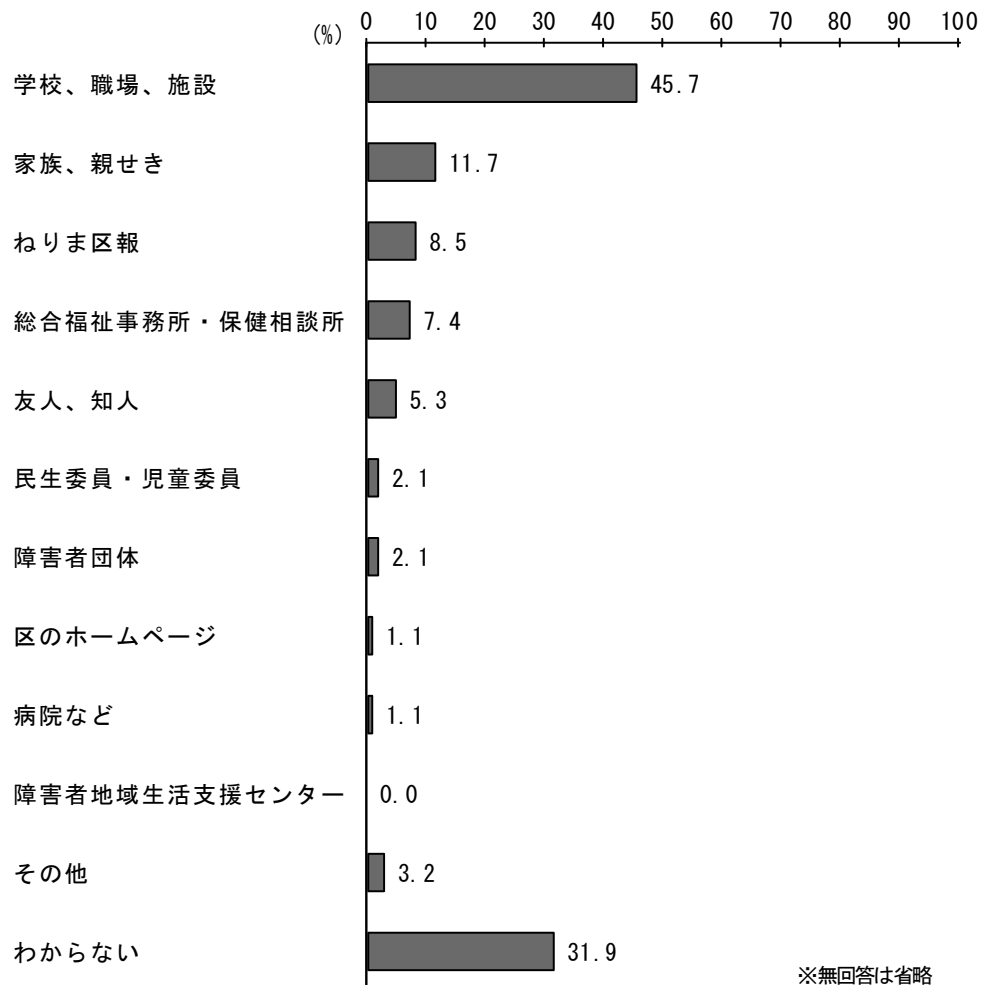
※無回答は省略

* 問6 障害の程度	n	6	1	3	9	10	4	5	2	8	7	11	12
		病院など	ねりま区報	総合福祉事務所・保健相談所	家族、親せき	友人、知人	障害者地域生活支援センター	学校、職場、施設	区のホームページ	障害者団体	民生委員・児童委員	その他	わからない
0 全体	311	29.9	26.7	19.9	11.9	11.3	9.3	4.5	3.5	2.3	0.6	7.7	17.4
1 1級	38	28.9	34.2	23.7	15.8	10.5	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0	21.1	5.3
2 2級	162	32.7	28.4	21.0	15.4	9.9	9.3	6.8	4.9	3.1	1.2	6.2	15.4
3 3級	101	27.7	22.8	17.8	5.0	14.9	10.9	1.0	2.0	1.0	0.0	5.0	23.8

施設入所者では、「学校、職場、施設」をあげる人が 45.7%と最も多く、次いで「家族、親せき」が 11.7%で続いている。

障害福祉サービスなどの情報の入手先(複数回答)

【施設入所者】全体 n=94



※無回答は省略

(5) 障害福祉サービスの情報提供を充実するために区がすべきこと（自由回答）

主な意見は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・電話・郵送・メール・訪問等を活用し、個別の情報周知。
- ・区報の充実。
- ・わたしの便利帳の充実。
- ・ホームページの充実。
- ・施設を活用した情報提供。
- ・現状に満足している。

【知的障害者】

- ・郵送による個別の情報周知。
- ・福祉サービス講演会による周知。
- ・わかりやすい手引きの作成。
- ・施設を活用した情報提供。
- ・障害専門の区報作成。
- ・相談窓口の知識向上。

【精神障害者】

- ・区報の充実。
- ・町内会掲示板や公共施設での周知。
- ・ホームページの充実。
- ・サービス情報が分かりやすく掲載されている手引きの充実。
- ・福祉サービス説明会の開催。
- ・新聞広告を活用した情報提供。
- ・個別に応じた細やかな情報提供をしてほしい。

【施設入所者】

- ・テレビを活用した情報提供。
- ・訪問による情報提供。
- ・施設職員からの情報提供。

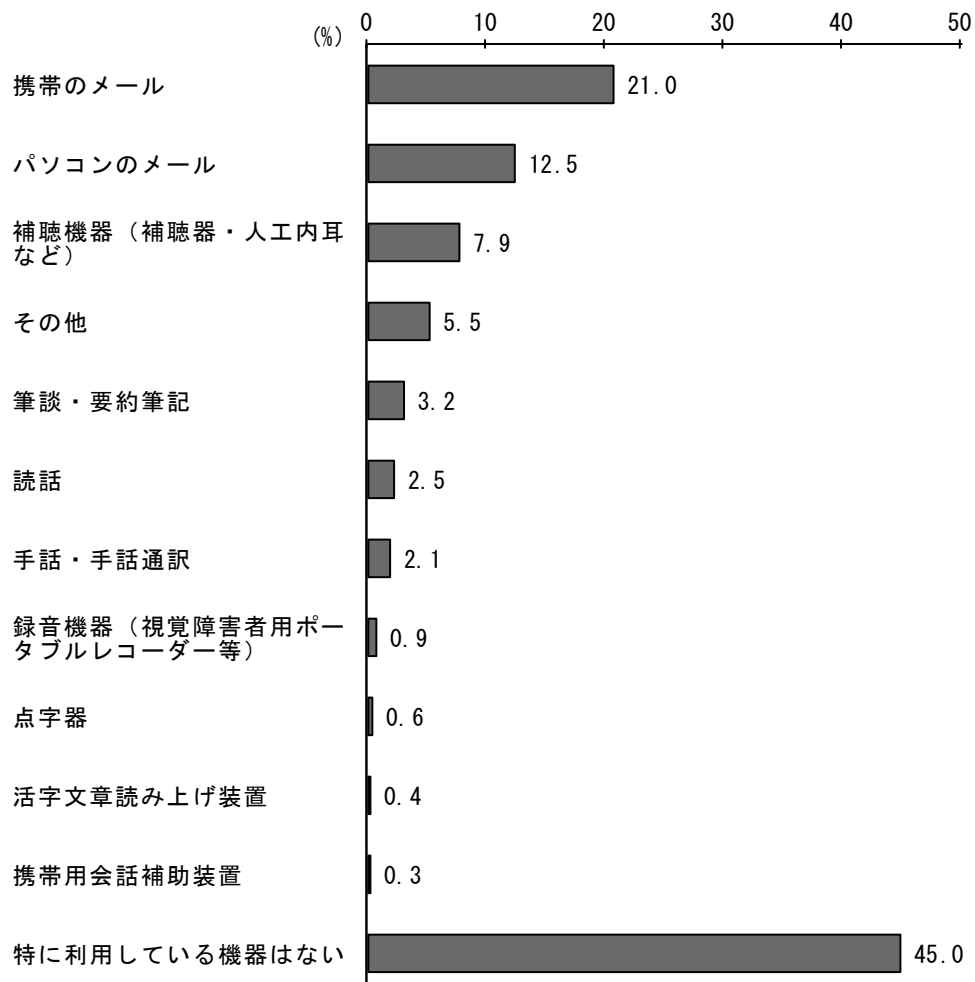
(6) コミュニケーションの手段・機器等の利用状況(身体障害者のみ) (複数回答)

コミュニケーションのための手段・機器等において、身体障害者の 21.0%は、「携帯のメール」、12.5%は「パソコンのメール」を利用している。

身体障害者に尋ねたところ、「携帯のメール」が 21.0%と最も多く、次いで「パソコンのメール」が 12.5%となっている。一方、「特に利用している機器はない」は 45.0%である。

コミュニケーションの際の手段・機器(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064

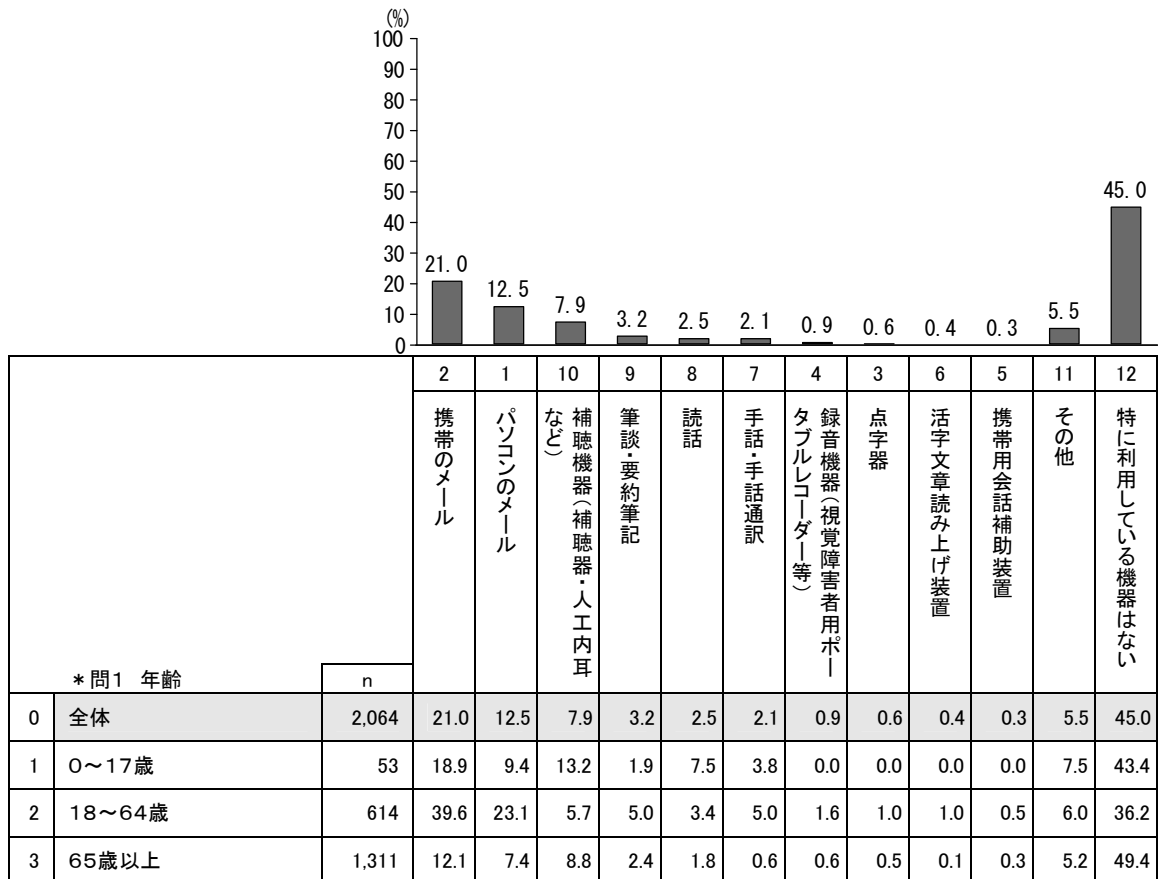


※無回答は省略

年齢区別にみると、18～64歳では「携帯のメール」が39.6%、「パソコンのメール」が23.1%と他の年齢区分より高い。

コミュニケーションの際の手段・機器（複数回答）

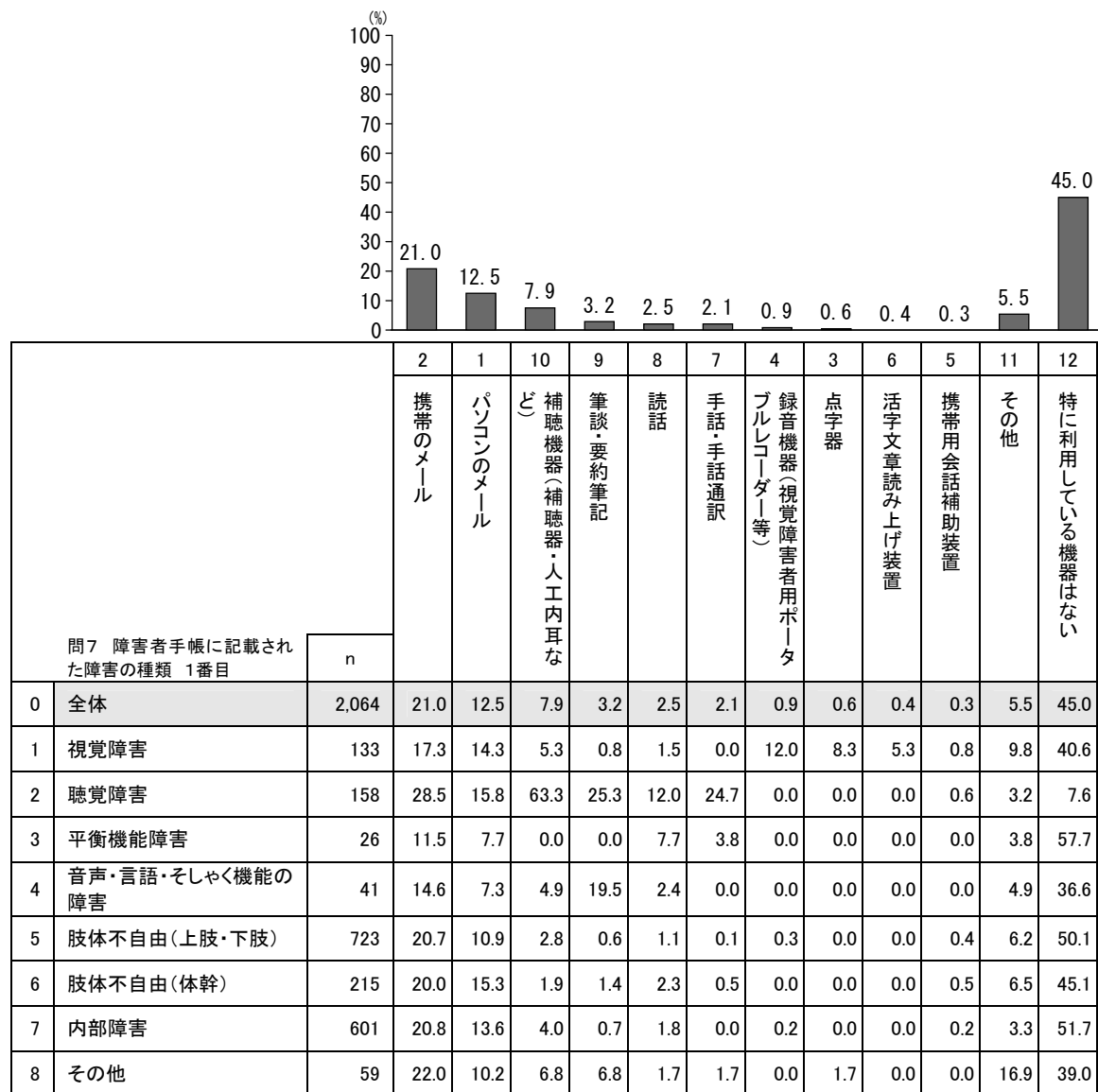
【身体障害者】 全体 n=2,064



障害の種類別にみると、聴覚障害では、「補聴機器」(63.3%)が最も多く、次いで「携帯のメール」(28.5%)である。音声・言語・そしゃく機能の障害では、「筆談・要約筆記」(19.5%)が最も多く、次いで「携帯のメール」(14.6%)である。

コミュニケーションの際の手段・機器(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064



(7) コミュニケーションや情報取得支援のために充実してほしいこと（複数回答）

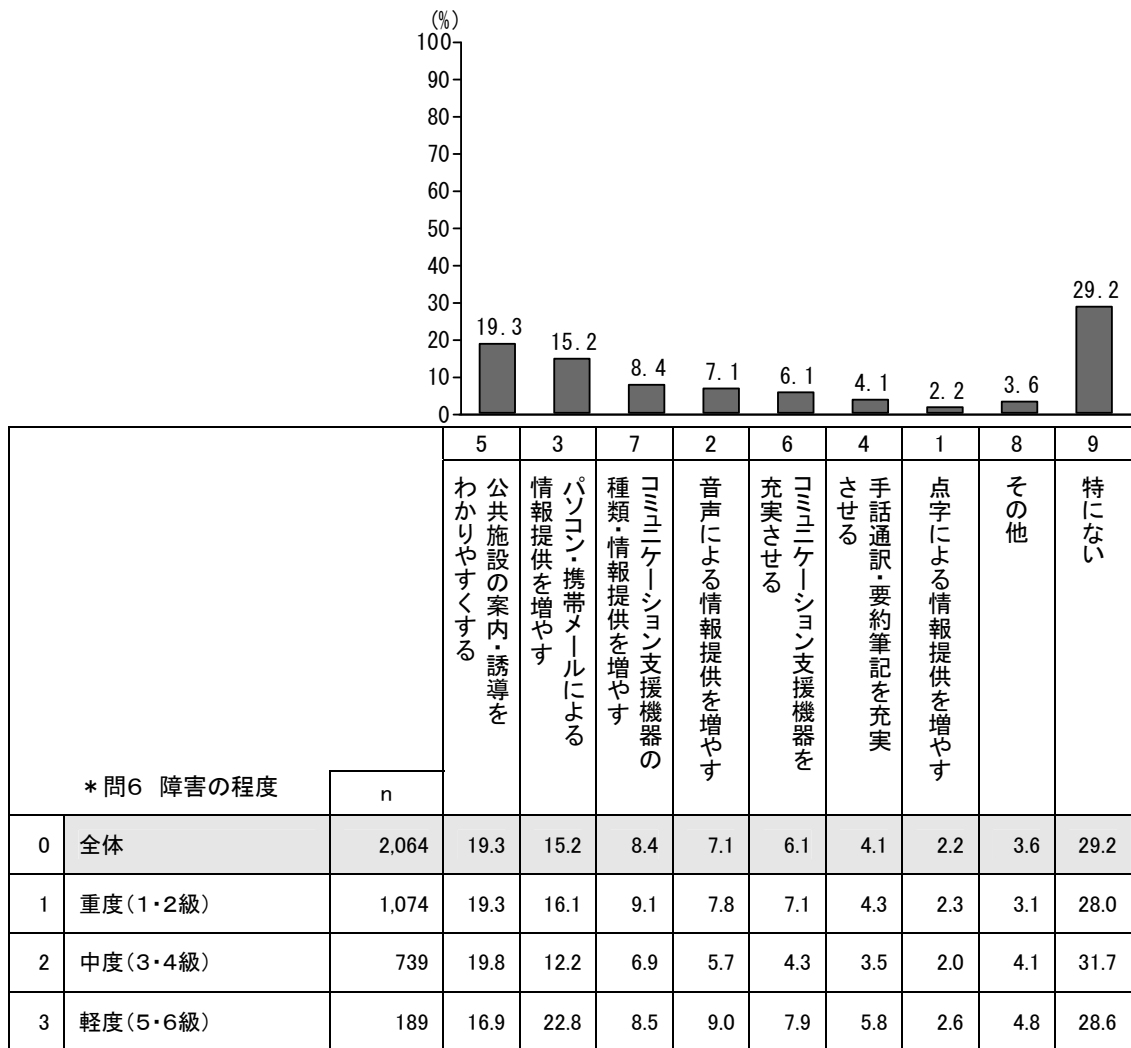
コミュニケーションや情報取得のために充実すべき内容としては、「公共施設の案内・誘導をわかりやすくする」、「パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす」が上位に上げられている。

コミュニケーションや情報取得のために充実すべき内容について、身体障害者に尋ねたところ、「公共施設の案内・誘導をわかりやすくする」が 19.3%と最も多く、次いで「パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす」(15.2%)、「コミュニケーション支援機器の種類・情報提供を増やす」(8.4%)である。

障害の程度別にみると、「パソコン・携帯メールによる情報提供を増やす」が、軽度(5・6級)で多くなっている。

コミュニケーションや情報取得のために充実すべき内容(複数回答)

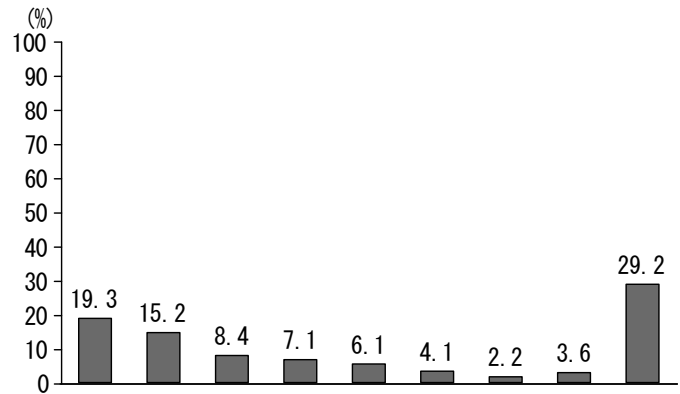
【身体障害者】全体 n=2,064



障害の種類別にみると、視覚障害では、「音声による情報提供を増やす」が他の障害の種類より多く、聴覚障害では、「手話通訳・要約筆記を充実させる」が多い。

コミュニケーションや情報取得のために充実すべき内容(複数回答)

【身体障害者】全体 n=2,064



問7 障害者手帳に記載された障害の種類 1番目		n	5	3	7	2	6	4	1	8	9
			わかりやすくする	公共施設の案内・誘導を 情報提供を増やす	種類・情報提供を増やす パソコン・携帯メールによる	音声による情報提供を増やす	コミュニケーション支援機器の 充実させる	手話通訳・要約筆記を充実 させる	点字による情報提供を増やす	その他	特にない
0	全体	2,064	19.3	15.2	8.4	7.1	6.1	4.1	2.2	3.6	29.2
1	視覚障害	133	24.1	19.5	12.0	36.8	9.8	0.8	8.3	6.0	17.3
2	聴覚障害	158	17.7	25.9	17.7	3.8	16.5	29.7	1.9	6.3	20.9
3	平衡機能障害	26	34.6	3.8	23.1	3.8	0.0	3.8	0.0	3.8	26.9
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	41	9.8	7.3	7.3	14.6	9.8	2.4	2.4	7.3	7.3
5	肢体不自由(上肢・下肢)	723	19.4	14.9	8.7	4.4	5.5	1.9	1.7	2.4	30.8
6	肢体不自由(体幹)	215	19.5	16.3	7.9	7.9	6.5	1.9	1.4	3.7	25.6
7	内部障害	601	19.5	14.1	4.8	5.0	3.7	2.0	1.8	3.2	36.3
8	その他	59	20.3	10.2	5.1	3.4	5.1	5.1	5.1	8.5	33.9